

WASEDA MECHANICAL ENGINEERING

WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

Newsletter

第37号
OCT. 2012

2012年(平成24年)10月1日発行

会長就任の挨拶

昭和41年卒 矢吹捷一



河合前会長の後を受け、会長を仰せつかりました矢吹捷一です。どうぞよろしくお願ひいたします。

数年前に友人の紹介で機友会の理事会に出席させて頂くまで、卒業以来ほとんど早稲田へ顔を出すこともなく、機械工学科の状況についても知識の少ない私が会長をお受けするのは些か躊躇するところでしたが、河合先生はじめ他の先生方とも相談の結果、私ども一般OBと機械科学・航空学科、総合機械工学科の先生方で力を合わせて機友会の発展の為に汗をかこう、と言うことになり、非力ではありますが務めさせて頂くことにしました。

昨年(2011年)11月には、河合前会長以下関係各位の努力で、「機械工学科創設100周年・機友会創設100周年」の記念式典が盛大に開催されました。この式典を機会に、過去100年を振り返ると同時にこれから100年の展望を全員で考えることが提唱されました。早稲田の卒業生の特徴は、それぞれの学問に対する優秀性に加えて、学間に独立性と独創性を持ち、その学問を活用し、もって社会・国家に貢献する、とした建学の精神に基づく気力と心意気にあったと思います。幸いなことに、先生方の努力と学生諸兄の精進により、早稲田の機械系卒業生の評価は高く維持されています。しかし、創設から100年、社会の環境は大きく変わってきました。経済発展の中、輸出製造業の競争に夢中で

過ごしてきた我々の世代でさえ、我々が残してきたもの全てが、はたして日本の次世代の人々の為に貢献していると言いかれるか、多少の疑念を感じ得ない今日、多くの在学生が自分の進路を決める上で、現在の社会が求める貢献とは?と人生の価値観を決めあぐねている様に思えます。機友会の100周年を迎えるに当たって、これから巣立ってゆく機友会員が、気力と心意気をもって進路に立ち向かって行ける様、情報の提供など手助けが出来ればと考えております。

前任の河合先生も述べられていた様に、機友会のように卒業生、在学生および先生方からなる組織では、その活動の軸足をどの世代と目的に置くかが大変難しいと感じています。夫々の世代、立場の違いを、機友会の場を通して相互に理解を深め、夫々の特性を生かした協力と活動が出来ればと思います。また、機械科学・航空学科と総合機械工学科の接着剤としての機能も、新たに機友会に求められることでしょう。

機友会の活動も時代と共に変化があつても良いと思います。ここ数年は、夫々の構成員が夫々の目的に沿って活用できる場の提供を重視して、機友会に対するニーズや意見を交換してゆきたいと思います。また、在学生への支援を第一優先とした機友会を目指したいものです。在学生の皆さんには、機友会活動への協力を願いすると同時に、積極的な利用・活用をお待ちします。会員

2010年からの2年間、河合先生には会長をお願いしました。その間100周年という大きなイベントを行いました。今回その後を受け、機友会のさらなる発展のため矢吹さん(41年田島研卒)が就任しました。

各位ならびに幹事・理事・事務局の皆さんには機友会の活性化と活動に、今までにも増してご協力を願いいたします。

[略歴]

1942年生まれ。1966年3月 早稲田大学第一理工学部機械工学科卒業。
2005年6月 三井造船(株)常務取締役船舶・艦艇事業本部長退任。
2005年6月~2009年6月 三井造船(株)顧問 技術顧問
2007年5月~2009年5月 日本マリンエンジニアリング学会会長。
船舶の基本計画に永年携わり、以後管理・マネージメントに従事。
現在は社会公益関連の一般社団法人常務理事。

CONTENTS

会長就任の挨拶	1
機械工学科・機友会創設100周年記念行事に参加して早稲田大学の将来に思うこと	2~3
2012年度 機友会総会の報告	4
オリエンテーションの報告	5
新任教員のご挨拶 イブニングサロンの報告	6
思い出コーナー	7~8
機友会 トピックス	8
サポート費	9
機友会 ゴルフコンペ開催報告 会員訃報	10
機械工学科OBの皆様へ 学生フォーミュラ活動(WFP)へのご支援のお願い	11
事務局からのお知らせ	11~12

機械工学科・機友会創設100周年記念行事に 参加して早稲田大学の将来に思うこと

早稲田大学環境総合研究センター参事・招聘研究員 昭和42年卒 石 太郎



1. はじめに

2011（平成23）年11月26日早稲田大学機械工学科・機友会創設100周年記念行事が行われました。私は機友会理事として100周年記念式典に参加させていただき、記念式典を通じて早稲田大学理工学部や機友会の歴史、これからの中の早稲田大学の方向性などを多くのことを学ぶことができました。改めて学生時代には気がつかなかった様々な視点から早稲田大学について考える機会となりましたので、私の感じた視点についてまとめてみました。

私は、昭和38年早稲田大学機械工学科に入学しましたが、当時の機械工学科は人数が増え新しい機械工学科教育として追われており、早稲田大学の精神を学ぶどころではなく余裕のない毎日でした。今回の100周年記念行事を通じて改めて、大隈重信公の考え方や早稲田大学建学の精神、機友会創設の精神に触れた感動がありました。

現在の早稲田大学は、本庄キャンパス、北九州キャンパスなど多くの地域にキャンパスが増えています。私も両キャンパスに授業で行く機会があり、特にここ数年、北九州キャンパスに授業やプロジェクト等で行く機会が増えました。早稲田大学北九州キャンパスは、“北九

州市若松区ひびきの”にある北九州産業学術研究機構の中に位置し、早稲田大学大学院が設置されています。しかし、案外北九州市に早稲田大学があることは知られていないのが実情です。早稲田大学の北九州キャンパスには大隈公の胸像もあり、同じ早稲田大学として建学の精神を共有し、ますます交流を深め、これらの時代に向けて同じ志を持ちたいものだと九州の強い日差しを浴びながらいつも感じています。機友会の仕事をしていく早稲田大学の地域の広がりに時代の流れを実感するとともに、早稲田大学としての共有感が必要であると常々感じております。

日本は今後少子高齢化が進むことで学生数も減り、我々の時代とは違った時代となります。他方では国際競争も激しく、今後日本の国力を維持するための人材育成は日本にとって大きな命題であると思っております。このような時代の流れの中で大学の機能は大変重要です。早稲田大学の校歌にある、“進取の精神学の独立”、“大なる使命を担いて立てる”、“仰ぐは同じき理想的の光”的思想は今の世にも通じるものであると感じております。早稲田大学はキャンパスも増え人も変わりますが、大学の精神を共有化し次世代社会に貢

献しなくてはならないことを、記念式典参加を機に改めて感じました。

2. 私と機械工学科

私が入学した昭和38年当時の日本は、昭和39年の東京オリンピックの準備もあり高度経済成長の真っただ中でした。このため技術者を増やす必要があり、早稲田大学理工学部も我々から440名に増えました。特に早稲田大学は、創立80周年記念事業の一環として理工学部の拡張が決定され、現在の西早稲田キャンパスに新しい理工学部が建設されました。このため我々の授業は大隈講堂のある本部と理工学部を行き来して授業を受けた記憶があります。

私は、斎藤孟研究室にて学部、大学院と勉強し、斎藤教授を始め機械工学科の諸先生方のご指導を受けて卒業しました。学部卒業論文は「直接噴射式ディーゼル機関の性能研究」、修士論文は「LPGによる自動車用機関の排気に関する研究」であり、テーマには自動車産業が伸びている当時の世相が反映されています。その後日産自動車の機関設計を始まりとして、様々な車づくりに関わる業務経験をしました。1993年に3年の米国赴任から戻り日産自動車交通研究所に配属となり、当



▲北九州キャンパス写真

◀北九州キャンパス
大隈公胸像写真



時始まったばかりのITS（Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム）の業務に携わることになりました。1996年には、VERTIS（現ITS Japan）に出向しITSの仕事にますます深く係ることとなりました。今となつては、日本でITSの創成期から実務に関わっている一人といえるでしょう。2001年からは縁あって早稲田大学に再び関係することとなりました。2004年10月実施の日本における「第11回ITS世界会議愛知・名古屋」の日本組織委員会事務局長の大役が終わり、早稲田大学理工学部で恩師の斎藤名誉教授、大聖教授、草鹿教授、紙屋教授等と早大モビリティ研究会等の諸活動をさせていただいており、今日に至っております。また数年前からは機友会理事の仕事に携わっております。これら一連の流れは、私にとってITSの仕事と相まって大学、社会、技術等の関係を考える良い機会となっています。

3. 機友会の歴史について

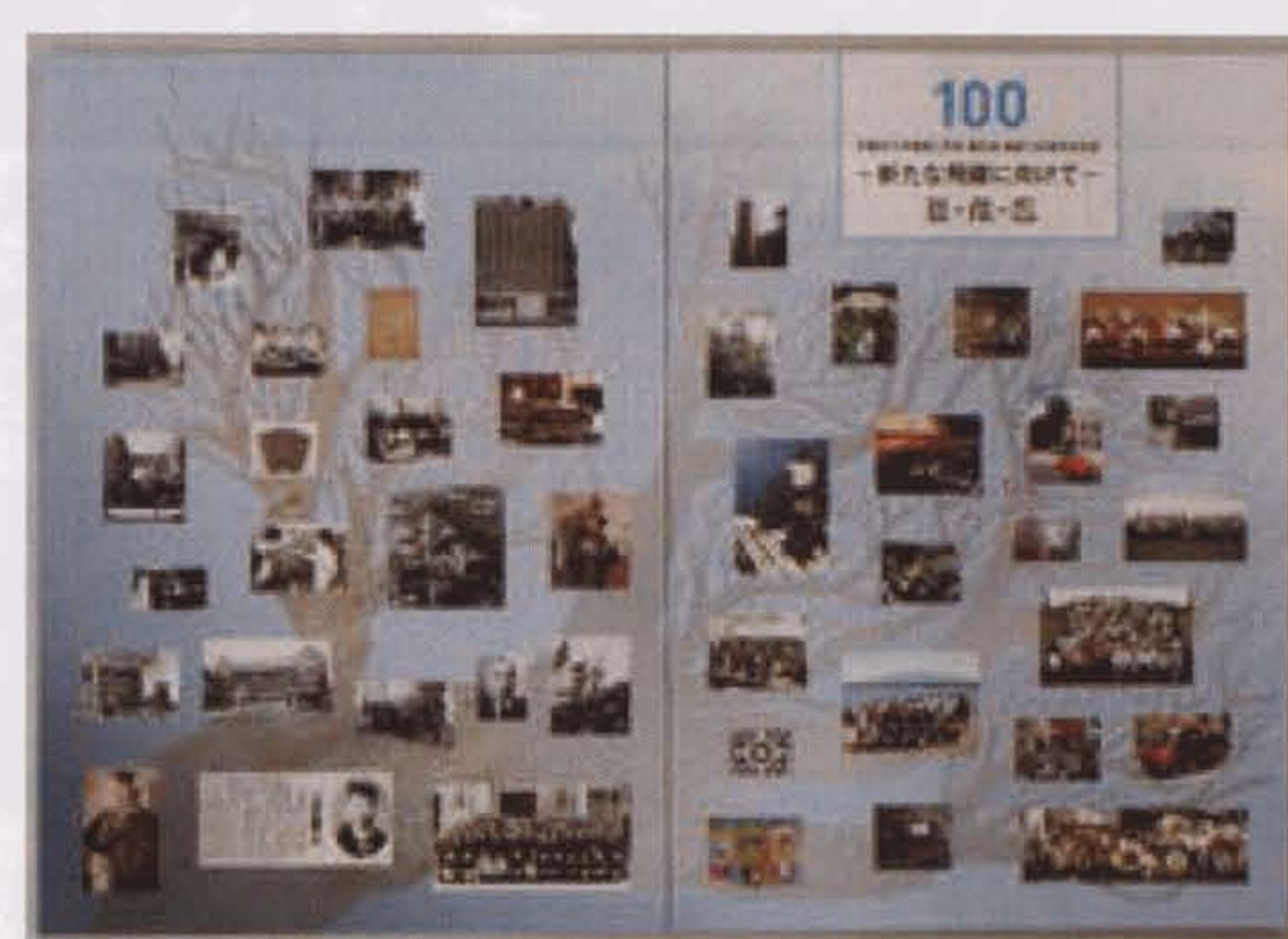
「そもそも機友会はどのように出来たのか？」ということについて斎藤先生にお尋ねしたところ、「早稲田大学理工学部機械工学科略史、昭和61年10月発行」を紹介いただきました。そこには機械工学科70年にあたり理工学部の歴史について稻田重男教授が子細に記述されています。これによると、「大正2年10月17日早稲田大学創立30周年記念式典が挙行され、これを機会に西岡達郎先生が創立委員となって、機械工学科の教職員、卒業生、在学生の親睦向上を目的とした「早稲田機友会」が作られ、機友会誌が発行されることになった。」と書かれております。そして、「早稲田機友会は創立以来早稲田機友会報を発行して会員の研究論文、論説、講義などを掲載する他に、雑報として教室や会員の消息、学生の工場見学や学外実習に関する記事、ふいご祭その他の行事のなども載せていましたが、これらの雑報は昭和3年7月から独立させてWME誌として発行することになった。WME誌は現在も健在で年に2回発行され、現にこの記事も載せていただいている訳であるが、親の早稲田機友会報はその後早稲田機友会誌と名を改めて発行を続けていたけれども、段々その発行が途絶えがちになり、とくに終戦後は2回発行されただけで、昭和33年12月の第37号を

理工学部創立記念号として出して以来、全く発行されていない」と書かれています。今回発行された「早稲田大学機械工学科・機友会創設100周年記念誌」と合わせ読むと改めて先人の機友会へのご努力の足跡が蘇ります。

100周年記念誌の中での杉島前機友会会长が、「1990年前後から歴代会長の努力にもかかわらず、学生や卒業生の大学に対する帰属意識に変化が生じはじめていた。その傾向を危惧された斎藤孟教授が1991（平成3）年度の会長に就任され、約2万人の卒業生と大学とのネットワークの構築、学生の研究活動やサークル活動の支援などを新生機友会と位置付けて計画された。」と書かれており、まさに今我々が再認識すべき視点でもあると感じました。我々の入学した昭和38年から機械工学科が400人以上の学生数となり研究室体制となったことで卒業年度単位では連携がとりにくくなつたと言われております。前記の稻田教授も「早稲田大学創立80周年記念事業の一環として理工学部の拡張が決定し昭和38年度の入学から学生数が大幅に増加することとなつたので、これを機会に教員数も増員した。」と書かれています。機械工学科は昭和36、37年の180名から昭和38年には440名となり、機械工学科が一番増加したのです。さらに2007（平成19）年度には理工学部の再編で創造理工学部総合機械工学科と基幹理工学部機械科学・航空学科になりました。このように振り返ってみると、早稲田大学は社会の要請に応えるべく将来を担う人材教育を行い、それにふさわしい学生を輩出することを目指していると思います。機友会の活動もこれらの歴史に対応して、先人の努力を踏まえて貢献しなくてはいけないと思いました。そして機友会が100年経過し次世代に向けて新たに踏みださなくてはいけない節目にあることを、100周年記念行事にあたり強く感じました。

4. おわりに

最後に機械工学科・機友会創設100周年記念行事参加と機友会活動を通じ



100周年記念誌の写真

て感じることについてまとめてみました。

- 1) 早稲田大学機械工学科・機友会創設100周年記念式典講演において、元早稲田大学総長の奥島孝康先生が、早稲田大学理工学部と今後の社会変化への対応について「100周年に寄せて」で述べておられます。すなわち「理工学部の学問は、独創性があり、かつ社会に貢献する学問である」、「今の学問において一番大事なのは、すべての学問の方向性がサステナビリティというところに収斂しているところである」、「教育とは希望づくりである」と述べられ、そして「早稲田大学がどういう人材を世の中に出していくかということによって、社会が変わる、日本が変わる、世界が変わることが大切である」と結ばれています。教育の理念として、我々もこれを理解し支援することが必要だと思います。
- 2) 大学は、今後の日本社会変化を見通し社会の求める人材を輩出する必要があります。我々は、早稲田大学の創立の精神を再認識し、これからの人材教育の支援をして行くことが必要です。早稲田大学としても将来社会を見通した教育ビジョンが検討されていると聞いておりますが、我々もそれを共有し我々のできることについて支援することが重要と考えております。
- 3) 機械工学科・機友会創設100周年記念行事に参加して、早稲田大学機械工学科・機友会活動もこのような精神の下現役の先生方とOBのネットワークを強固にし、次世代社会に貢献することが重要であり、そして学生にとっても魅力的な活動にしなくてはならないと改めて感じました。

2012年度 機友会総会の報告

5月19日（土）機友会総会が西早稲田キャンパスの理工学部55号館S棟1階第一会議室で開催されました。

総会は浅川副会長（昭和41年卒）の総合司会で進められました。河合会長（昭和39年卒）の開会の挨拶のあと、河合会長の司会のもとに総会の議事進行がなされました。まず、会計担当の荻須理事（昭和40年卒）による「2011年度事業報告」「2011年度決算報告」の個々の内容の説明がありました。収入の部では会費収入は前年とほぼ同額、学生の会費が若干増加しました。機友会の意味を日ごろから説明していただいた先生方のお蔭です。

一方、支出の部では事業費として100周年事業として予定していた項目の実質的な支払いがなされました。記念事業費を除けば、通年の事業予算内に収りました。ニュースレターは記念誌発行のため年一回としましたが、予算に組み込み済みでした。記念事業についてはまだ記念講演冊子の作成ほか残務処理等を2012年12月31日に締めることとし、2013年の春のニュースレターで会計報告いたします。

監査報告は監事の代理として会計担

当の瀬在理事（昭和47年卒）よりなされ、問題なく承認されました。

「2012年度事業計画（案）」「2012年度予算（案）」は例年の活動項目ですが、さらに学生への支援をより厚くしようとこの面での予算を増やしております。

質疑応答では機友会の運営につき総括的な質問があり、河合会長が回答しました。

これら2案とも承認されました。決算報告を以下に示します。

その後100周年記念事業について浅川副会長より総括的な報告を行いました。

今期は、会長、理事の改選の年に当たり、次期役員が報告されました。会長の河合素直先生（昭和39年卒）は退任され、後任に現副会長の矢吹捷一氏（昭和41年卒）が着任しました。またOB理事では泉知明氏が退任し、新任理事に、松島義幸氏（昭和45年卒）、西圭一郎氏（平成2年卒）が着任、また、若手教員理事では切川卓也氏（平成16年卒）が大野慶祐氏（平成20年卒）に交代し他の理事は留任です。最後に新会長の矢吹捷一氏が就任の挨拶をしました。

以上で総会の議事が終わり、つぎに、今年の総会では、100周年記念事

業推進に努力された事務局の佐々木洋子氏に会長より感謝状が贈呈され、また東日本大震災のボランティアで活躍した学生さんも一緒に表彰されました。



恒例の基調講演では、東芝株式会社並木元副社長（昭和48年卒）より会社での貴重な体験を講演していただきました。

懇親会は56号館地下の生協のカフェテリアで100名余が集まり、大石副会長（昭和32年卒）の司会で例年どおり盛大に賑やかに歓談が持たれました。最後に小澤氏（昭和35年卒）の音頭で校歌を斉唱し、閉会となりました。



2011年度決算報告

収入の部

項目	予算額	金額	通期備考
前納分会費（11年度分）	3,012,863	3,012,863	5,515,786(12年以降)
当期納入会費（11年度分）	1,500,000	1,322,300	
		1,057,000 OB会費	
		265,300 学生会費	
基金から繰り入れ	1,000,000	1,000,000	
サポート費	1,000,000	627,172	
雑収入	250,000	244,615	
		1,091銀行+1,024郵貯	
		110,000 総会懇親会会費	
		128,000 見学会・イブサロ	
		4,500 馬車道金券	
収入計	6,762,863	6,206,950	
前期繰越金	4,760,379	4,760,379	
合 計	11,523,242	10,967,329	

（参考）2010年度決算報告

項目	金額	備考
前納分会費（10年度分）	3,741,988	
当期納入会費（10年度分）	1,430,709	
OB会費	1,177,750	1,431,000 (11年以降)
学生会費	252,959	1,241,541(11年以降)
サポート費	1,175,000	
雑収入	258,651	
	4,651	銀行+郵貯
総会懇親会会費 3000x72名	216,000	
イブサロ1000×38名	38,000	
収入計	6,606,348	
前期繰越金	4,988,349	
合 計	11,594,697	

支出の部

項目	予算	実績金額	2011年度備考	金額
事業費				3,705,461
ニュースレター発行費	2,000,000	1,565,365	35号作成、発送	2,359,109
学生支援費	500,000	729,000	機友会サークル増額、オリエンテーション	498,000
奨学金	200,000	69,000		105,000
総会・会議費	600,000	298,867	総会、理事会、各委員会	487,536
行事・活動費	800,000	444,018	ゴルフコンペ、見学会無料、イブサロ、パネルディスカッション	255,816
100周年準備金	4,000,000	4,000,000	100周年記念事業へ	
事務局費				3,128,857
人件費	2,000,000	2,330,350		2,123,750
交通費	350,000	347,280		325,100
通信費	200,000	198,634		170,842
事務用品・印刷費	300,000	252,909	パソコン更新	379,498
慶弔費	20,000	7,890	弔電	5,690
データベース管理費	50,000	0	パソコン修理	47,250
振込み手数料	100,000	67,617	(33,620+2,250)郵便局+(30,487+1,260)りそな	76,727
雑費	30,000	850	寄付金振替手数料補填	0
支出計	11,150,000	10,311,780		6,834,318
緑越金		655,549		4,760,379
合 計		10,967,329		11,594,697

（参考）2010年度

貸借対照表 2012年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
新宿北郵便局	3,874,169	機友会基金	5,325,798
郵便振替分	7,624,850	緑越金	655,549
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	131,389	預り金 入金済会費	5,515,786
りそな銀行新宿支店	3,133,971	100周年記念基金（機友会扱い）	3,621,038
みずほ銀行新宿西口支店	296,747		
現金	57,045		
合 計	15,118,171		15,118,171

今回は5つの機友会公認サークルによる活動報告を石太郎（S42年卒）理事の司会のもとで行い、一年間の成果や今後の進め方等、短い時間の中で上手に纏めて発表しました。発表は次の5サークルでした。

- エコランクラブ
- 早稲田大学宇宙航空研究会
- ニッショ・スキークラブ
- Waseda Robo-One Project
- Waseda Formura Project

代表 堤 太輔 君
代表 横山 大 君
代表 森山 真幸 君
代表 徳田 史瑛 君
代表 森崎 洋平 君

オリエンテーションの報告

新入生の親睦としてオリエンテーションは3グループに別れ行われています。今回初めての基幹理工学部全体として、まだ航空学科に入る前の1年生です。総合機械工学科(1年)機械科学・航空学科(2年)もオリエンテーションは行われましたが、こちらの報告は来年の春号(4月1日)発行でお知らせします。

基幹理工学部 新入生オリエンテーション 実施報告

基幹理工学部 教務主任 機械科学・航空学科 太田 有

2012年4月21日(土)、基幹理工学部の新入生オリエンテーションが63号館2階の大教室と、1階のレストラン馬車道で開催された。2年前までは軽井沢セミナーハウスで行っていたこのオリエンテーションは、新入生と教員との懇談の機会を一層増やすことを意図して、現在の形に変更された。西早稲田キャンパス内の開催であるため、50名を超える多くの先生方にご参加頂き、新入生にとっては各学科の先生と直接懇談できる貴重な機会になったことと思う。機友会からは毎年、この新入生オリエンテーションに対して相当額の補助を頂戴しており、ここではその御礼も兼ねて実施報告をさせて頂きたい。

基幹理工学部は一括入試制度を採用しており、新入生は学科に所属することなく全員が1年間の共通教育を受ける。その後、2年進級時に基幹理工学部に所属する6学科(数学科、応用数理学科、情報理工学科、機械科学・航空学科、電子光システム学科、表現工学科)から自らの希望によって進学先を決定する学科進級振り分けを行っている。今回の新入生オリエンテーショ

ンでは、この学科進級振り分け制度の説明に加え、学科紹介(写真1参照)、先生方や助教・助手を囲んでの懇親会(写真2参照)が開催された。

基幹理工学部の一括入試、1年次共通教育、学科進級振り分け制度の導入という教育システムは、学部創設6年目を迎えて受験生や社会に徐々に周知され、近年は一般指定校から多くの推薦入学者を受け入れると共に、2月に実施される一般入試の志願者数も増加傾向にある。本年度は学部創設以来、最高の志願者数を記録するまでになっている。入学してからの1年間で基幹理工学部に所属する全ての学科の先生から直接講義を受ける機会があるため、実際に自分の目で講義内容や研究内容を確認してから進級先学科を決定することができるこのシステムは学生諸君に好評である。一方、この学科進級振り分けが1年次の成績上位者より順番に希望する学科へ進級できるシステムになっているため、自分の希望する学科へ進級するために基幹理工学部の学生は相対的に良く勉強するようである。近年の学科進級振り分けでは、

実に96%程度の学生が第1または第2希望の学科に進級している。

基幹理工学部における機械科学・航空学科の人気は微妙である。入学直後の4月に行う進級予備調査ではいつも人気が多く、学科定員を上回る学生が志望している。本年度の新入生も学科定員150名に対して170名を超える第1希望者がおり、表現工学科と本学科のみがこの時点で学科定員を上回っている。しかし、大学の講義が始まると共に何故か徐々に人気は低下し、2年進級直前の志望調査では7割程度にまで減少し、ここ数年は希望者数が定員に満たず、誰でも希望すれば進級できる“底なし”の状態になっている。機械関連分野の後継者育成のためにも、是非、機友会の諸先輩方から機械工学の魅力を新入生に伝えると共に、更なるご激励・ご鞭撻をお願いできればと存じます。

最後になりましたが、本報告で使用した写真は、理工センター総務課の高野正子様が撮影されたものを拝借しました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



マイクロサイズの小さな機械

機械科学・航空学科 専任講師 岩瀬英治

2012年4月に機械科学・航空学科に専任講師として着任いたしました。専門は、マイクロマシン・MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) で、微細加工技術を用いて作った10 nm~100 μm程度の3次元構造や可動構造に関する研究を行っております。2005年に東京大学 大学院情報理工学系研究科で博士（情報理工学）を取得した後、同研究科で助手・助教として機械工学および情報工学分野の研究・教育に携わっておりました。このときには、可視光の波長サイズの構造であることを利用した光学デバイスなどの研究を行っておりました。また2010年から

2012年まで、ハーバード大学 School of Engineering and Applied Sciences (SEAS) でPostdoctoral Fellowとして微小な構造に生じる量子力学的效果を計測するといった応用物理学分野の研究を行ってきました。

マイクロマシン・MEMSは微細構造を利用したセンサやアクチュエータを得意とする分野のため、応用としては医療・生物分野から機械・航空宇宙分野まで幅広く利用可能なものです。自分自身も前述のように、機械工学・情報工学・応用物理学とさまざまな学問領域との融合研究を幅広く行ってきました。そのため、今後は是非とも早稲

田大学にいらっしゃる先生方、また機友会の皆様がいらっしゃる企業の方々と協働して研究を行い、世の中に役立つようなことが出来たらと思っております。

早稲田大学に着任してまだ日が浅く、校歌もやっと覚えたところとまだ至らない点が多くあると思っておりますので、機友会の皆様のご指導・ご鞭撻をいただければ幸いと存じております。



イブニングサロンの報告

昨年、東日本大震災のため、開催が延期されたイブニングサロンが一年後の2012年3月15日に開催されました。講師は一年前と同じく共同原子力専攻の師岡慎一先生で、テーマは原子力発電所の事故を受けて、「福島原子力発電所事故の原因、対策そして将来」とされました。

このイブサロ予告には、大変な反響があり、30名の予定のところ47名の申込みがありました。

講演は、まず、原子炉の構造と、津波を受けて福島第一原子力発電所でどのような事故が起きたか解説されました。しかし、メルトダウンした原子炉内部の状況が今、実際どうなっているかなど、わからないことが多いそうです。次になぜ防ぐことができなかったかという話になりました。これは、津波の高さを6メートルと想定していたため、非常用電源が喪失してしまったこと、電源がなくても自然の力で冷却する仕組み(IC=Isolation Condensor)が設置されていたのに、制御盤のバッテリーが切

れこの装置につながる配管の弁が閉まり、この大切な仕組みが働かなかったことなどがあるそうです。この自然冷却装置が動いてくれていたら、事故は収束出来たかもしれないということです。教訓と対策という項目では、事前の訓練不足などもあり折角の設備をうまく利用できなかったことが挙げられました。

この事故で得られた教訓をもとに、国内の他の原子力発電所では、さまざまな対策を行っているそうです。万一の事故の時でも、放射能を外部へ出さないフィルター付ベントを設置することなどです。また、津波対策としては、津波防護壁、水封扉そして非常用電源を高台に設置することなどが紹介されました。先生は、最終的には再生可能エネルギーにバトンタッチする必要があるが、現在の実力ではいつになるか、見通しがついておらず、バトンタッチは簡単には達成されないだろうという見解を述べられました。

質疑応答では、参加者が機械工学科出身ですので、事故の要因そして福島

原子力発電所の廃炉方法など具体的な活発な議論がされました。共同原子力専攻を志望する学生が減ったかというと増えており、また、先生の原子力講義を選択する学生も大震災以前より3倍（だいたい40名から120名）になっているということです。

講演後の懇親会でも原発の今後、福島原子力発電所の事故要因そして対策など議論がつきませんでした。

師岡先生は、冷静に、事故を分析し、反省する点をはっきり指摘していました。このような悲惨な事故を起こさないために、原子力の専門家を教育することは、ますます重要になったと思います。

(文責 萩須)



師岡慎一先生

思い出 コーナー

～心のふるやく機友会～

ボートレースの思い出

昭和27年卒 坂井徳郎

早稲田大学を卒業してから早くも60年が経ちました。会社の飲み仲間との付き合いは殆どなくなりましたが、中学校（旧制）のクラス会や機友会総会などには欠かさず参加しています。機友会は学生時代の遊び仲間、杉島君が一昨年まで6年間も会長を務められたこともあり、数年前にはゴルフ大会にも参加しました。

今年の機友会総会前に何気なく卒業アルバムを開いてみたら学生生活がいろいろ思い出され、ひととき、独りでニヤニヤしておりました。あらためて

驚いたのは機械工学科の卒業生が114人もいたことや、運動会やボートレースなどの行事が教授も参加して行われていたことです。

理工学部がボートレースを開催したのは私が大学4年生の時でした。理工学部各科の対抗レースです。私が早稲田にいた5年間に1回だけの開催だったと思います。レースの開催場所はお化け煙突（千住にあった石炭火力発電所の4本の煙突）が見える隅田川の尾久コース。たぶん早稲田大学の艇庫が尾久にあったのだろうと思います。このとき使ったボートは6人漕ぎ舵手付で、漕手の座席が固定なので『フィックス』と呼ばれていたものです。当時の中学校（旧制）のレース用で昭和28年頃まで使われました。

ボートに関して、私は終戦後中学5年のときにボート部に入って対校レースや昭和21年の第一回国民体育大会に関東代表で大津の瀬田川に遠征するなどの経験があり、いささか自信があったので、力の強そうな自分を含めた6人と軽そうな舵手1人を選んで1クルーを作り何回か練習指導をしました。

このボートは固定席なので手に豆が出来ると同時に尻の皮が剥けるので、練習をそこそこにしないとレース当日、使い物にならなくなります。対水速度は15km/h程度ですが6人の櫂の動きを合わせることが重要で、合わないと『腹切り』と言って櫂が勝手に動いて漕手を打ちのめすことになります。

レース本番では、右側の漕手が頑張りすぎたのか、ボートは左方向へ向かい、舵で方向修正が出来なくてコースアウト、残念ながら優勝出来ませんでした。参加記念にいただいたメダルの裏には『第23回早稲田大学理工学部ボートレース1951』と書いてありました。ノンポリ学生の、唯一汗を流した思い出です。



記念写真

昭和30年卒クラス会の近況

昭和30年卒 矢杉正明

昭和30年代は高度成長期で各人忙しく全国に赴任しましたのでクラス会は数える程しかありませんでしたが、平成になり60歳を過ぎてからはよく集まるようになり平成10年からは毎年開催するようになりました。殆どホテルでやっており最高40名が集まりましたが、今年は原点に戻り構内の高田牧舎に集まりました。

昭和26年80名で入学した時の大隈講堂前での記念写真、60年後のクラス会に32名参加した時の記念写真です。卒業生は100名で平成23年9月9日現在物故者が33名、住所生存不明者が7名です。

ゴルフ部もあり年2回今年秋は7名の参加でした。当日写真を撮りませんでしたので昨年の藤ヶ谷CCの花見ゴルフの写真です。また平成18年卒業50年を記念して「昭和ひとけたのひとりごと」と題して文集を発行しました。



昭和26年 入学時



平成23年 クラス会



ゴルフコンペ

昭和33年卒1理機械工学科クラス会

昭和33年卒 鍵山一郎

9年ぶりのクラス会を去る5月27日(金)新橋の第一ホテル東京に於いて、バイキング・着席方式で開催しました。36名の級友が、遠くは福岡・兵庫・奈良・愛知からも出席して、ますます盛況でした。出席者の中には、目・耳・足が少し不自由な方がぽつぽついましたが、皆さすがに元気で久しぶりに顔

を合わせて相手の多くなったしわ、薄くなった頭髪をじっと見て「ああ、お前か」と大声で挨拶している様子が多くなったようでした。会は発起人の挨拶に続き、物故者(この9年間に亡くなった方は7名、卒業以来では17名)への黙祷、その後は幾つかの輪ができて、昔話、震災、原発など世相の話が弾み、終わりは例によって校歌を肩や腕を組みア・カペラで合唱をして「3年後にまた会おう!」で散会しました。

た。なお今回欠席した方の近況によると、3分の1は体の具合が悪い、残りは旅行・所用で元気の様子です。次回は更に多くの出席を期待しています。

出席者 秋山・浅見・浦山・小川積幸・小田・香川・鍵山・風間・鹿島・柏谷・鎌倉・河島・行天・工藤・古賀・小島・小安・近藤・笛・佐藤彰也・佐藤智士・鈴木英和・添田・高瀬・高橋功・竹折・羽田・馬場・坂東・平岡・淵上・前川・本多・丸山・宮崎・柳瀬の諸氏

機友会トピックス

米国SolidWorks社Jeremy HARRINGTON氏授業見学受入記

機械科学・航空学科 教授 富岡 淳

2012年5月9日、米国ダッソーシステムズソリッドワーク社の教育部門の営業統括本部長であるJeremy HARRINGTON氏が、機械科学・航空学科3年生必修の授業「機械科学・航空設計法F」の見学に来られた。本授業では、同社の3次元CADソフト「SolidWorks」を使用している。Jeremy HARRINGTON氏の見学の目的は、さらなる良いソフトを開発し販売していくために、多人数教育で同社のソフトがどのように使用されているかを確認するためであった。本授業では、150名の学生に対して授業を行っているが、このような多人数に対する授業は、他に例がないとのことであった。

Jeremy HARRINGTON氏は授業開始直後、後ろの方で、見学されているだけであったが、途中からは、積極的に

に学生の中に入って、教室中を駆け巡って、CADの操作法を指導されている姿が、印象的であった。授業全体の雰囲気も、いつもとは違った緊張感がみなぎった。

後日、Jeremy HARRINGTON氏より、授業の感想が届いた。お世辞の部分も多々あるとは思うが。原文(ソリッドワークジャパンの社員が翻訳)のまま、お褒めの部分を紹介すると、

- (1) 150人もの集合教育を見学するのは初めてで驚いている。欧米諸国とは違う刺激を受けた。
- (2) アメリカではTAの数が少ないが(1人だけしかいないこともある)、日本ではきちんと学生をサポートする体制が整っていることが印象に残った。

(3) 150人の集合教育を行う上で全ての学生がきちんと理解するための工夫、技術職員やTAとのコミュニケーションがきちんと出来ていることに感心した。

(3) 日本の段階的な積み上げ教育の大切さを感じた。そのため機械製図の授業でSolidWorksを使いながら、設計手法やJIS

富岡先生とHARRINGTON氏

を理解するためのカリキュラムの工夫を感じた。

(4) (日本語は分からないが自分も工学部出身なので)授業の様子を見て高度な授業を行っていることが分かる。

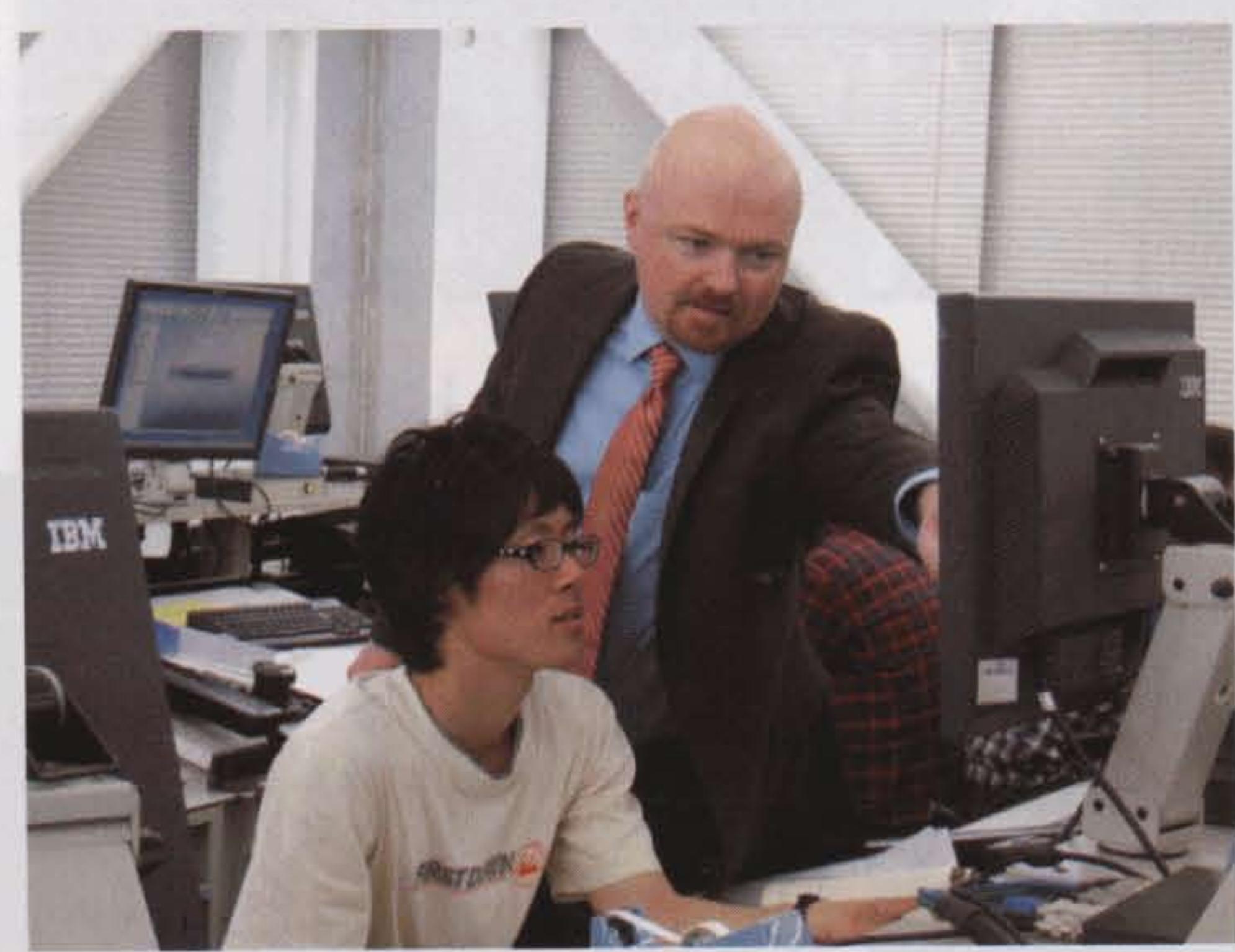
(5) 富岡先生が学生を動機づけるために表現や説明に工夫をされていたこと、工学的な内容以外に社会のルールなどを生徒に教えていたことも印象に残った。

その一方で、次のような苦言も頂いた。

(1) 出来る学生には、物足らない授業かもしれない。もっとハイレベルが課題を与えれば、その学生たちは今は比べ物にならないくらい伸びるはずだ。

(2) 授業についていけてない学生がいて、取り残されている。その対策も重要である。

この苦言こそが、多人数教育の悩みであるのだが、解決する方法を探ることは重要であろう。



HARRINGTON氏と学生

サポート費のご協力有難うございました。

2012年4月1日より2012年7月31日の間に50名の方々より総額320,000円のサポート費のご協力がありました。誠にありがとうございました。

先期は機友会創設100周年の祝典もあり、記念寄付金のお願いもありましたにもかかわらず、今期もこのような多額のサポート費をいただき大変恐縮しております。

従来通り機友会発展のために使わせていただきます。

卒年	氏名
昭和15年	羽田 勝彦
昭和21年	吉森 信夫
昭和22年	並木 正一
昭和24年	常盤 通雄
昭和25年	平野 俊雄
昭和25年	小沢 秀夫
昭和26年	秋葉 秀一
昭和26年	佐野 武司
昭和26年	川野 元
昭和27年	太田 公陽
昭和27年	杉島和三郎
昭和29年	仁木 基文
昭和29年	久保田 清三
昭和30年	常盤 大麓

卒年	氏名
昭和30年	金子 欣司
昭和30年	佐藤 宣夫
昭和30年	石川 吉通
昭和30年	本波 哲郎
昭和30年	森垣 英彦
昭和31年	増田 昌士
昭和31年	平田 博美
昭和32年	石岡 貞雄
昭和32年	間野 健三
昭和32年	渡部 祐禧
昭和32年	佐伯 俊造
昭和32年	江口 昌典
昭和33年	近藤 芳夫
昭和33年	中沢 和之

卒年	氏名
昭和33年	相川 義治
昭和33年	佐藤 智士
昭和33年	桜井 治男
昭和33年	清野 正
昭和33年	大淵 昭
昭和33年	秋山 三郎
昭和33年	佐渡 弘一
昭和33年	鍵山 一郎
昭和35年	小澤 勝
昭和35年	古川 春海
昭和36年	倉石 篤
昭和37年	今津 佑治
昭和41年	眞壁 照雄
昭和42年	松永 律夫

卒年	氏名
昭和43年	上野 潔
昭和45年	萩澤 亘保
昭和45年	羽片 和夫
昭和50年	高島 達也
昭和50年	鈴木 一彦
昭和52年	岸之上 憲一
昭和53年	北野 誠
昭和56年	魚谷 幸一
昭和63年	星 光昭
平成05年	五十嵐 洋晃
平成7年	石川 宏之
元職員	佐々木 洋子

2012.7.31現在（敬称略）

機友会の会費のみでは活動を継続的に続けるのは厳しい状態ですので、皆様のご支援に大変感謝しております。どうぞ今後とも皆様の多大なるご支援・ご協力を賜りたくお願いする次第であります。本当にありがとうございました。

皆様から頂いているサポート費の中から一部サークルへの支援に使わさせていただいております。今回サークルについて下記の報告を致します。また、報告書の提出後、担当理事が審議した結果にともない予算を配布しています。

エコランクラブ

機友会公認サークル活動報告

会員 機械/全員	2011年度 活動報告				2012年度 活動計画
	(所有マシン) Jakoh T-95 Ne0 New Machine Trendy Xennos	(鈴鹿大会) リタイア リタイア 不参加	(茂木大会) 3位 リタイア 2位	(全国大会) 計測不能 30位 19位	
25/30					アセロラ・スポーツ 新マシン製作 モノコック、C-FRP、燃料供給ECU、 1-2輪 匠 新マシン製作 スペースフレーム、木材/アクリル、 キャブ、2-1輪

宇宙航空研究会

会員 機械/全員	メカトロ ロケットプロジェクト 鳥人間、天文 (日本女子大)	メカだけでなくソフトも開発 カンサット大会（ロケットからロボットを射出、打ち上げ地点に戻る） 7/24・25鳥人間コンテストタイムトラ イアル部門に出場 観測会6回・プラネタリウム製作（ドー ム・投影機） NHKロボコン参加審査落選	6/10NHK大学ロボコン・8月川崎ロボット大会 モデルロケット製作・打ち上げ/燃料実験 鳥人間コンテスト不出場・機体の製作 (タイムトライアル向け) ドーム・投影機の改善 観測会4回
35/102			

Waseda Robo-One

会員 機械/全員		市販ロボットによる基本構造・仕組み の勉強 設計・解析・プログラム・コントロー ラ班による設計完了	ロボットの製作及び検討・改良 サークル内ロボット相撲大会・2足ロボット 大会実施
19/19			

ニッセスキークラブ

会員 機械/全員		陸上トレーニング/インラインスケート トレーニング 冬合宿・岩岳全国学生大会男子22位、 89位女子126位 オール早稲田基礎スキー技術選手権大会 男子5位/9サークル 女子4位/9サークル 男子個人総合優勝	陸上トレーニング/インラインスケートトレ ーニング オール早稲田基礎スキー技術選手権大会 練習の絶対量の増加 板の構造やスキー理論の勉強
9/76			

Waseda Formula Project

会員 機械/全員		初の出走	2年以上の人数不足により参加を見送る 研究・車両開発、1年生の育成
10/16			

機友会 ゴルフ コンペ開催報告 春

2012年5月20日、川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催された第28回機友会ゴルフコンペでの優勝者中村さん（昭和36年稻田研卒）からのコンペ参戦記です。

同情を呼んだ優勝

今回は第28回を数え、参加者が57人の盛大な大会でした。

平成9年5月に「機友会縦の親睦づくり」の狙いで発足した機友会ゴルフだそうです。現在も機友会ゴルフ委員の労をとられている石岡様や杉島、高橋両大先輩の努力で始まり、当初は参加希望者少なくて、やっと10人集めた苦労話を反省会で知りました。

前回優勝の下山さんの誘いで同期（36卒）から初参加の私含めて9人も参加し、またまた優勝者が連続して出るという珍しい結果になりました。同期クラスコンペも春・秋に開催されており、春の大会は下山さんが優勝で、その前の秋の大会優勝の私から幹事を引き継ぎが終わったばかりでしたから、全く逆の偶然な結果となりました。

当日のスコアは45、47グロス92、HDCP 20.4でNET 71.2でした。

コンペ戦記は頭に無く、当日のスコアカードは既に紛失していますが、トリプルが1ホールも無く、自分にしては良い出来でした。

しかしながら6Hの隠しホール、ホール打数上限なしの開催要領から優勝は大叩きのあった人になると隣席と語らい、呑気にパーティーを楽しんでいました。



優勝者として名前が最後に呼ばれ、吃驚すること!!
(どうやら新ペリアで隠し12H、上限9打となる集計上のミスがあったようですが、後の祭り)

翌日、同期の志村さんのメールが全てを表しています。

「優勝と決まったときの貴兄の表情は忘れられません。身につまされました。」

優勝者は120名の会員への参加要請、組合せ決定、開催要領発行等幹事役の大変さを伝え聞いていたためですが、どんな顔をしていたのでしょうか？

しかし岡部委員長から優勝カップ、キャディバッグを授与されて喜びも一入でした。

今後の優勝者のために一言申し添えますが、機友会ゴルフ委員会は組織、役割が明確で幹事は優勝者ですが、委

員長はじめ、賞品係り、ルール係り、データ管理、記念会特別幹事等と機友会事務局で分担され幹事の仕事も助けて貰えます。

委員の方々と反省会、次回大会へ数回の準備会を通じて懇意になる楽しみもあります。今回も委員間のプライベートゴルフに参加させていただく予定です。

またエクセル名簿からのメールアドレスへの一括変換等、PCで学ぶことも多く、感謝しています。

（町田稲門会のPC交流会にフィードバック予定）

私事ですが、昨年から今年にかけて菊つくりで入賞（町田市、また高幡不動では優等首席のカップ等）や囲碁クラブでの優勝、他のゴルフコンペでの優勝等が重なり幸運のピーク感があります。今後は運に頼らずに修行の心算です。



参加者全員

会員訃報

2012年2月以降に、下記の会員の訃報についての連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。（敬称略）

2012.7.31 現在

卒年	学歴	氏名	逝去年月	卒年	学歴	氏名	逝去年月
昭和14	旧機械	秋山 正英	2005.1.2	昭和29	機械	鈴木 彦	2011.1.14
昭和15	機械	竹中 博夫		昭和29	機械	原島 洋二	2012.4.17
昭和16	旧機械	多田 六朗		昭和30	一機械	榎本 靖	
昭和16	旧機械	成瀬 守	2010.5.3	昭和30	一機械	小川 恵正	
昭和17	専機	平澤 孝		昭和30	一機械	難波 正好	
昭和22	専機	秋田 孝	2011	昭和30	一機械	山本 雅則	
昭和22	機械	木村 大	2007.3	昭和34	二機械	高橋 武次	2011.7
昭和23	機械	市川 道雄	2012.3	昭和35	一機械	中垣 弘	2012.3.14
昭和24	旧機械	宮本 信義	2011.11.11	昭和36	二機械	清水 信一	2011.11.30
昭和26	旧機械	井口 武	2011.1	昭和37	一機械	東 三陽	2012.1
昭和27	二機械	梶山 智	2011.4.10	昭和37	一機械	榎本 金次郎	2011.11
昭和27	機械	加藤 幸雄	2011.8.19	昭和38	二機械	小幡 正一	2010.6.13
昭和27	機械	金井 淳	2011.8.9	昭和38	一機械	沢本 一義	2010.9.6
昭和29	機械	相原 道夫	2004.12.20	昭和44	機械	平井 克明	2012.2

ゴルフ委員長が交代しました。

泉さんにおかれましては2008年11月6日（第23回）の優勝の後、委員長をやっていただきましたが、2011年12月をもって委員長を退任しました。ご苦労様でした。泉さんの後任として、岡部公一さん（41年卒）が引継ぎました。引き続きよろしくお願ひします。

機械工学科OBの皆様へ（機友会もサポートしています）

学生フォーミュラ活動（WFP）へのご支援のお願い



森崎 陽平（もりさき ようへい）

創造理工学部総合機械工学科宮下研究室4年

来春より創造理工学術院総合機械専攻へ進学予定

公式サイト：<http://waseda-fp.com/>

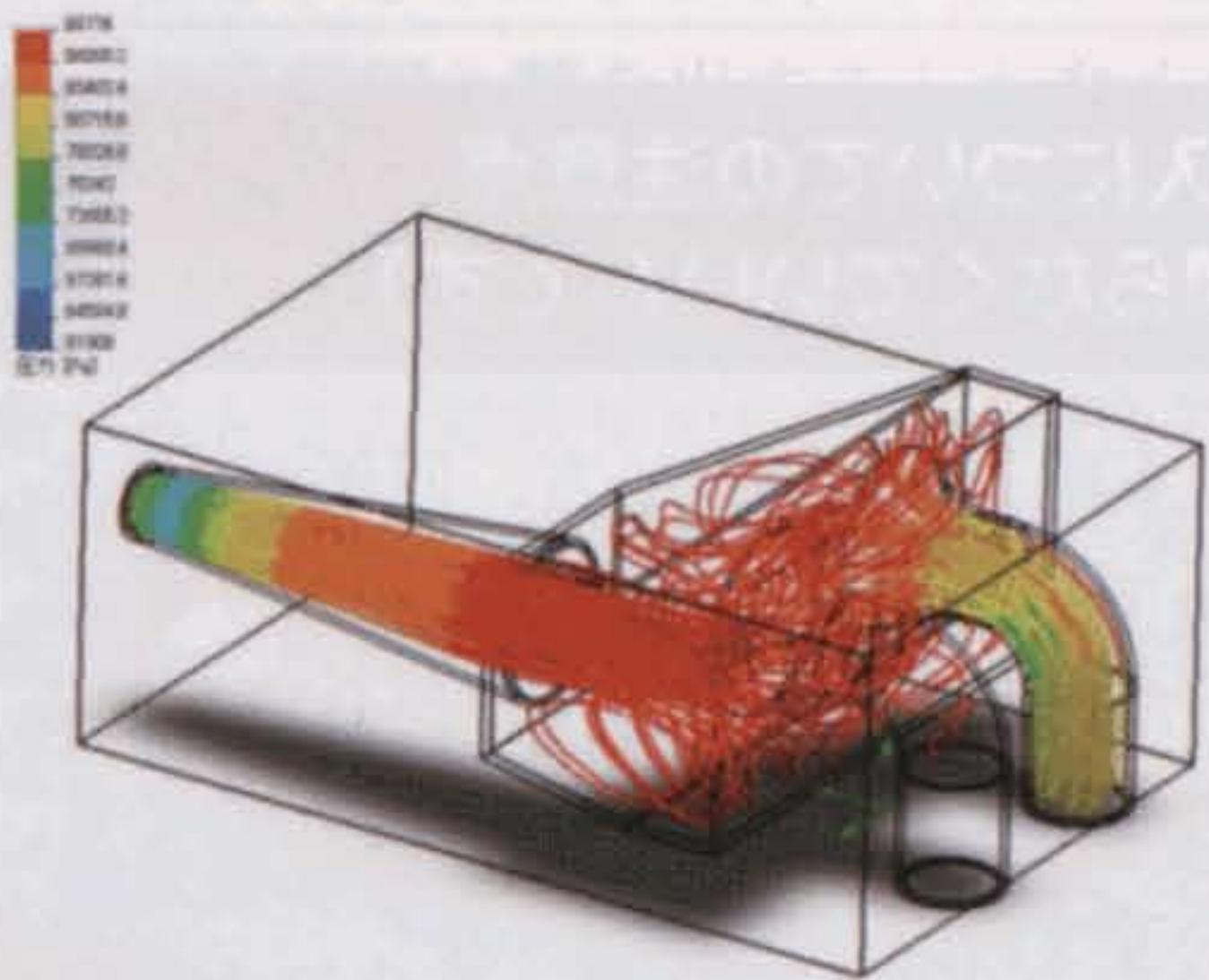
メール：postmaster@waseda-fp.com

早稲田フォーミュラプロジェクト
(Waseda Formula Project；以下WFP)
は、早稲田大学理工学部の学生を中心
に結成されたレーシングチームです。

学生の手で1年ごとに新規に車両を
設計・製作し、自動車技術会主催の全
日本学生フォーミュラ大会に出場して
います。

WFPは設立以来、体制の安定化と
規模の拡大に努めておりましたが、チ
ーム規模・体制が万全とは言えず、現在
我々の活動に賛同いただける企業様・
個人様のスポンサーを募集しています。

資金だけでなく、物資や試験機器、
走行場所の提供・貸与もお待ちして
います。



今年度は250万円弱の予算を予定して
おりますが、80万円ほどご支援いただ
ければと思っています。本誌添付の機
友会会費振込み用紙に当チームへの支
援金専用欄をご用意いたしました。ご支
援のほど、よろしくお願ひいたします。

チーム体制

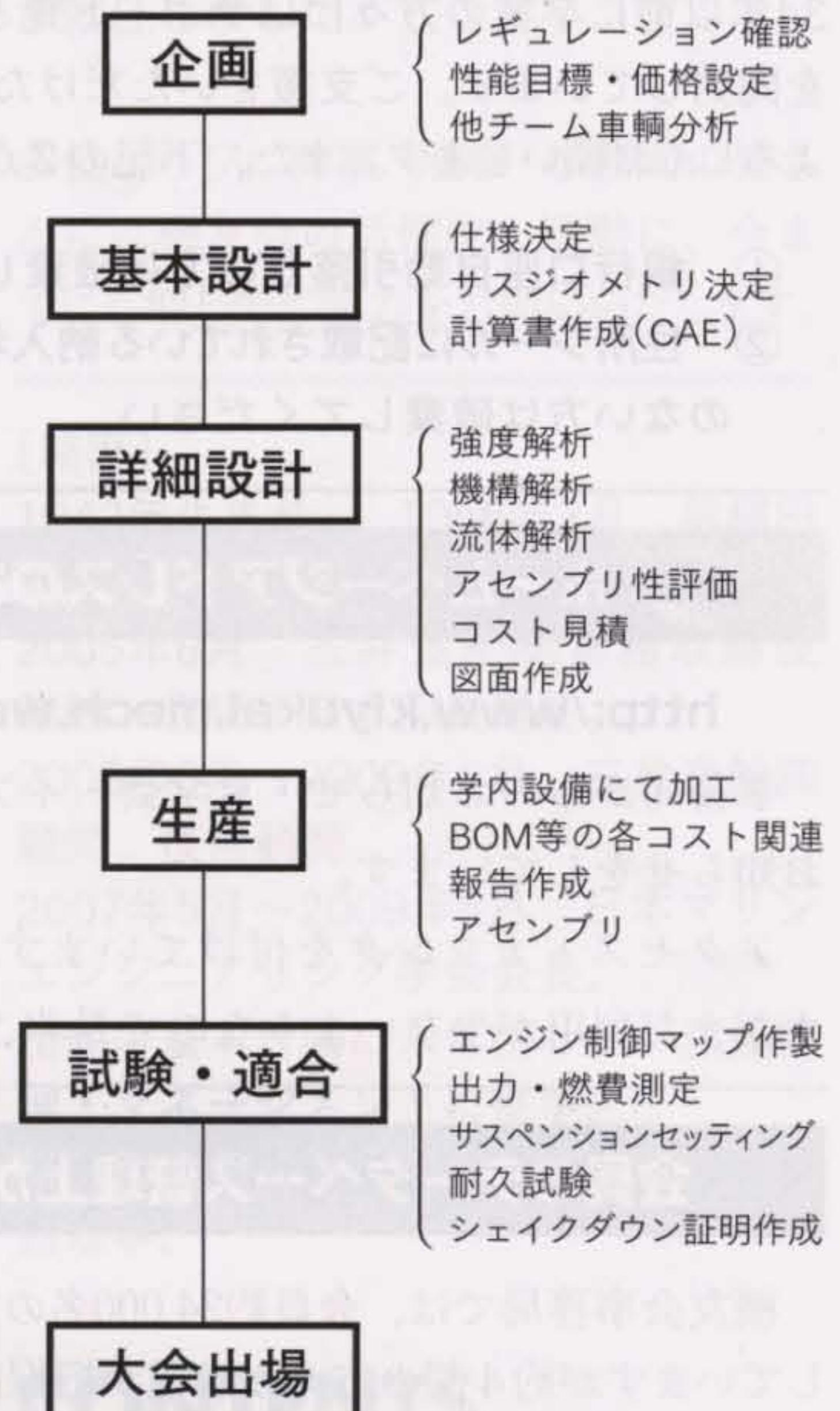
創造理工学部6名、基幹理工学部6
名、政治経済学部1名、法学部1名の
計14名に加え、総合機械工学科の教
授3名ほか実験室職員の方にご指導い
ただいています。

活動

右記の表に基づき、1年周期で車両
を製作しています。技術的・設備的に
不可能なものは購入ないし外注を行
いますが、溶接やフライス、旋盤加工、
セッティングや適合作業などは全て学
生の手で行っています。また、CAEの
有効活用を目標としており、シャシー
をはじめとして吸気系統やサスペン
ション機構はシミュレーションを基に
仕様を決定しています。

現在募集中の物資・設備（一部）

- ・非破壊探傷機
- ・シャシーダイナモ
- ・ブレーキローター
- ・ブレーキキャリパー
- ・ブレーキマスターシリンダ
- ・LSD (ATV用など小型のもの)
- ・データロガー (エンジン・ドライブ
ング)
- ・ステアリングラック
- ・スリックタイヤ



事務局からのお知らせ

第29回 機友会ゴルフコンペ開催のお知らせ

機友会ゴルフコンペも回を重ね29回目となりました。少しずつですが世帯交代しつつある中で前回優勝の下山さん（36年卒）からのお誘いで、28回優勝者は初参加の中村さん（36年卒）が優勝しました。新しい方々の参加をゴルフ委員一同お待ちしています。

日 時 2012年11月15日(木) 8:33分 Out/In同時スタート

場 所 川崎国際生田緑地ゴルフ場

会 費 プレー費 16,000円+食事代+5,000円（懇親会費・賞品代・その他経費）

問合せ先 機友会事務局 佐々木まで e-mail : waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

前回は奥様も参加され、はなばなしく行われました。来年の第30回大会には、記念品を考えています。

事務局からのお知らせ

会費の自動引落し窓口を開設しています

会費納入に便利な銀行口座自動引落しの窓口を設けています。会費は1年間2,750円と少しだけお安くしています。ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。

4月1日からの開始となります。たとえば5月に申込みをいただいたても、翌年の4月1日からになります。

会費納入の注意点（必読）

春号（4月1日発行）・秋号（10月1日）のニュースレターに同封している郵便局の振込用紙はダイレクトメールで発送するため全員に同封しています。当年度までの納入者と昭和34年以前に卒業の方々にはサポート費と印字した振込用紙を同封しています。ご支援をいただけたらと思っています。よろしくお願ひします。また、下記の2点にご注意ください。

- ① 銀行口座自動引落しの方は破棄してください。
- ② 住所シールに記載されている納入年度を確認して必要な方は破棄してください。

ホームページアドレスのお知らせ

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

事務局からのお知らせ・見学会・イブニングサロン等のお知らせをしています。

アクセス・カウンタを付けています。現在14,926です。まだまだ利用が少ないようでは是非ご覧ください。

会員のデータベース管理上からのお願い

機友会事務局では、会員約24,000名の方々のデータを管理していますが約4割の方々の情報が把握出来ていません。個人情報の点からも情報を経ることは非常に難しいことから是非、住所変更は必ず事務局までご連絡をいただければと思います。

また、計報についても同期会・友人で情報をお持ちの方がおられましたら、事務局までご連絡いただきたいと思います。

編集後記

今回、トップ記事は会長の交代で始まりますが、毎回編集していて何か良いテーマはないかといつも思っていました。そんな時昭27年・昭31年・昭33年卒業の方々から同窓会の記事を載せてほしいと連絡が入り、思い出コーナーと題して掲載しました。

そこで、卒業生の皆様、このコーナーに今後投稿していただければと思います。

今年の夏は今までになく暑い日が続きましたが、秋のさわやかな日が待ちどうしい今日この頃です。 編集担当 事務局オリーブ

住所・E-mail等の変更があった時はご連絡ください

事務局から発送する郵便物が受取人不明のため返却されることがたいへん多くなっています。個人情報保護法の問題もあり確認が極めて困難になっています。

お手数ですが住所・勤務先・E-mail等の変更が生じた時は事務局までメールでお知らせください。または電話・FAXでもかまいません。よろしくお願ひします。

会費納入のお願い

※会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円

会費規定が変わり割引額がなくなってから5年になりますが会費納入率は余り良くありません。機友会の活動は皆様方からの会費を財源に運用しています。是非皆様からの納入をお待ちしています。納入については郵便局または、下記銀行からお振込みください。

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 №.2460079
りそな銀行 新宿支店 普通口座 №.1375963

なお、お振込みの際は同姓同名がありますので、卒年・氏名（フリガナ）を必ずご記入ください。

会費納入についての注意点 (会費は遡らなくていいんです)

会費を今までに一度も納入していない方、何年か納入しないでいた方が、遡って納入してくれることがあります。たいへん気を使っていただき有難いのですが、会費を遡っていただく規則がありません。一度も納入してなくても、当年からの納入でいいです。

以上のことから過去の会費は気にしないで納入をしていただけたらと思います。よろしくお願ひします。



竹内明太郎像



WME ニュースレター 第37号
発行元 早稲田機友会編集委員会

印刷 神谷印刷株式会社
〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24